

Monthly Report

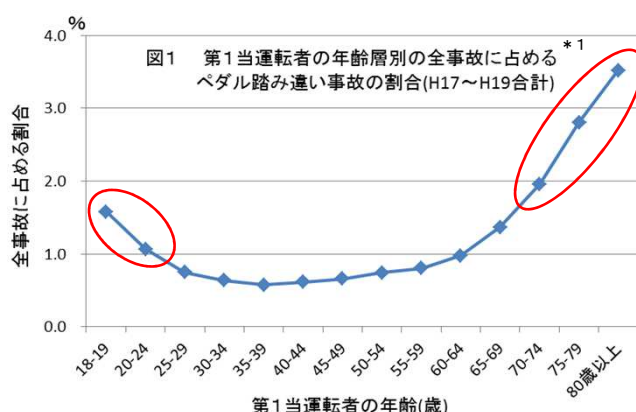
2017年6月号

特集
ペダル踏み違い事故

アクセルとブレーキを踏み違い、突然車が暴走して歩行者の中へ突入する、あるいは道路外の建物に突っ込む、駐車場の壁を破って外へ落下する。こんな大事故に繋がる可能性のあるペダル踏み違い事故は、日本で年間6千件から7千件も発生しています。今回はこの踏み違い事故について考えてみましょう。

1. 踏み違い事故は高齢者と若年者に多く発生している

全事故に占めるペダルの踏み違い事故の割合を運転者の年齢層別に見てみると、高齢者と若年者の割合が高くなっています。踏み違い事故は、必ずしも高齢者だけに特有の事故ではなく、どの年齢においても発生する可能性があります。



2. 踏み違いを起こしやすい状況

高齢者は、道路以外の駐車場などで、バックによる発進時に踏み違い事故が突出して発生し、若年者は、交差点付近での発進時に踏み違い、追突するケースが多くなっています。若年者は車に不慣れな状況が影響し、高齢者は高齢による判断能力の衰えなどが影響していると推察されますが、これはAT車特有の事故であり、何れの場合もシフトレバー操作前にしっかりとブレーキペダルが踏めていない状況が原因と考えられます。ブレーキを踏まなかったり、アクセルを踏んだままシフトレバーを操作すると、車が急に動きだし、運転者の想定外の動きとなる可能性が高いのです。

*1 国際交通安全学会 平成22年度 研究調査報告書
「アクセルとブレーキの踏み違いエラーの原因分析
と心理学的・工学的対策の提案」P17
<http://www.iatss.or.jp/common/pdf/research/h2294.pdf> 統計値を基に当社作成



3. ブレーキを踏まなかったり、アクセルを踏んで

ペダルの踏み違い事故は、車が運転者の想定外の動きをした時に、ブレーキを踏むところを、慌てて、アクセルを踏むことにより起こります。

アクセルは、運転で最も使用するペダルであることから、とっさの慌てた状況下で、無意識にいつものペダルを踏んでしまうと考えられ、特にバックの時などは、空間位置のずれなどから、この傾向が出やすいと考えられています。

事故が発生するのは、瞬時のことですので、踏み違いによる誤作動を修正することは、ほぼ不可能と言えます。



4. 踏み違い事故防止策

踏み違い事故は、車の想定外の動きを引き金としていることから、車に想定外の動きをさせないことが最も重要な対策です。

具体的には「シフトレバーを操作する前に、必ずブレーキをしっかりと踏んでいること」など基本動作を意識して行うことです。

そのために、発進や後退時には、シフトレバーやブレーキペダルの位置を目視確認した上、「ブレーキよし」「シフトレバー位置よし」「アクセルよし」と声に出しながら呼称運転するなどの取り組みが有効と思われます。

他には左足でブレーキを踏むという防止案もありますが、慣れるまではぎくしゃくとしたブレーキ操作になりがちで、かえって被追突などの事故になり易いとの意見もあります。また、機械的に踏み違い事故を防止する「踏み違い防止装置」をつけることも一考です。その装置は、アクセルとブレーキが一体化したペダルです。「ワンペダル」という名称で販売されているようですので、興味のある方はネットで検索してみてもいいかもしれません。



SOMPO ホールディングス

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、

「お・も・い・や・り」のある運転を!

みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同